

府中市観光振興プラン検討協議会 第3回 議事録

1 日時：令和3年3月5日（金） 10時00分～12時00分

2 場所：市役所北庁舎3階第1・2会議室

3 出席者：＜順不同敬称略＞

公募市民	石川伊智郎	
商工関係団体の推薦する者	井上博正	むさし府中商工会議所
府中観光協会の推薦する者	宇田雅志	府中観光協会
学識経験を有する者	大下茂	帝京大学教授
府中観光協会の推薦する者	大津貞夫	府中観光協会
学識経験を有する者	小野一之	郷土の森博物館館長
民間事業者の推薦する者	井上光男	サントリービール株式会社
商工関係団体の推薦する者	筒井孝敏	府中市商店街連合会
民間事業者の推薦する者	都留圭一郎	日本中央競馬会 東京競馬場
学識経験を有する者	得居泰司	ジェイコム東京 J:COM アナウンサー
民間事業者の推薦する者	長尾諭	東日本旅客鉄道株式会社
民間事業者の推薦する者	林健太郎	京王電鉄株式会社
商工関係団体の推薦する者	廣瀬健	まちづくり府中
公募市民	深澤廣太郎	
公募市民	横山年子	

4 次第

(1) 開会

(2) 確認事項

第2回府中市観光振興プラン会議録について

(3) 報告事項

第2回府中市観光振興プラン検討協議会及び第3回府中市観光振興プラン検討ワーキンググループについて

(4) 審議事項

府中市観光振興プランの骨子案について

(5) その他

5 議事の内容

(1) 開会

開会挨拶(大津会長)

【大津会長】

おはようございます。本日は、大変お忙しい中、またコロナ禍の中、第3回府中市観光振興プラン検討協議会にご出席いただきましてありがとうございます。報道によりますと、緊急事態宣言が延長される予定で、様々な面で影響が予想され悲しさを感じます。一日も早い収束を願います。

大國魂神社のくらやみ祭も5月5日に開催される予定でありましたが、感染拡大を考え中止が決定しております。長い歴史の中で2年続けて中止というのは私の記憶では初めてでございます。多くの市民をはじめ近郊の皆様が楽しみにしていたお祭りではございましたが、このような結果になり非常に残念でございます。また、大國魂神社が中止となると、この後の神田祭や三社祭等も影響されてくるのではと思っております。皆さまにおかれましてもご自愛いただきたいと思っております。

本日で協議会も3回目となります。1回目、2回目と皆さまから貴重な意見をいただいております。そちらを整理しております。本日も皆さまからの積極的なご発言、有益なご意見をいただければと思っておりますのでよろしくお願い致します。

それでは、第3回府中市観光振興プラン検討協議会を始めます。まず事務局から、本日の委員の出席状況を報告してください。

委員出席状況(事務局)

【事務局】

本日の委員の出席状況ですが、15名様出席していただいております。本協議会は有効に成立していますことをご報告いたします。なお、サントリービール株式会社、渋谷委員におかれましては、人事異動により委員を継続できなくなったため、井上次長を紹介いただき、本日付けで委員にご就任いただいております。報告は以上です。

【大津会長】

本日の協議会は有効に成立していると報告がございました。また、井上委員が新たにご就任をいただいておりますのでご挨拶いただきたいと思っております。

※井上委員よりご挨拶

続いて、事務局から傍聴希望を報告してください。

傍聴希望の状況について(事務局)

【事務局】

昨日までに、傍聴を希望された方はおりませんでしたので、本日の傍聴希望者はおりません。

配布資料の確認(事務局)

・配付資料

資料 3-1 府中市観光振興プラン検討協議会 第2回 議事録

資料 3-2 第2回協議会・第3回WG振り返り資料

資料 3-3 府中市観光振興プラン骨子案

資料 3-4 今後のスケジュール

(2) 確認事項

府中市観光振興プラン検討協議会 第2回 議事録について

※別紙資料 3-1 参照

【大津会長】

府中市観光振興プラン検討協議会第2回議事録について、事務局から委員の皆様へ事前送付されております。本日資料 3-1 としてお手元にございますが、各委員の皆様へ内容を確認いただいた中で、修正すべき点や何かお気づきの点がございましたら、ご意見をお伺いしたいと思います。

※委員からの意見なし

資料の通り、第2回議事録の内容を確定したいと思いますので、事務局は速やかに公開の手続きを行っていただきたいと思います。

(3) 報告事項

第2回府中市観光振興プラン検討協議会及び第3回府中市観光振興プラン検討ワーキンググループについて

※別紙資料 3-2 参照

【大津会長】

只今、事務局から前回の協議会・ワーキンググループ（以下、WG）の検討結果の報告がありました。委員の皆様、何かご質問等ございますでしょうか。

●質疑応答

【深澤委員】

前回の計画と今回の計画の大きな違いは何でしょうか。20代が多いのは意外ですが、原因は何かを突き詰めないと、それが正しいかどうかかわからないと思います。現行プランで重点施策となっている部分が本当に成果が出ているのか議論しないと、また同じ計画になってしまうと思います。折角作っても何も結論がでないということでは意味がないので、それを踏まえて進めないともったいないと思います。

【事務局】

おっしゃる通り、現プランがどこまで進捗しているか、今までの事業含め、現在市と JTB 総研で検証しておりますので、整理して改めてお伝えができればと思います。また、現プランをどう変えていくのか、という部分ですが、この後、骨子案という形でご説明させていただきます。

【大津会長】

ありがとうございました。他にご意見ございますでしょうか。それでは、報告事項は了承といたします。

(4) 審議事項

府中市観光振興プランの骨子案について

【大津会長】

次に、次第4、審議事項に移ります。この資料は3-3 府中市観光振興プラン骨子案として新しい観光振興プランが冊子になるときの章立てと、その中に記載する項目がまとめられております。この骨子案が了承されましたら、次年度以降、本協議会及びWGにおいて内容の肉付けがされていくとイメージしていただければと思います。それではまず、1 ページ目、府中市観光振興プランの概要の新プラン想定項目について事務局から説明をお願いいたします。

※別紙資料 3-3 参照

【事務局】

1 ページ目、府中市観光振興プランの概要の新プラン想定項目について事務局よりご説明させていただきます。

1. 府中市観光振興プランの概要

- ・プラン策定の目的
- ・プランの位置付け
- ・プランの計画期間／プランの目標
- ・観光振興へ向けた施策

現行プランでは、産業振興施策の一つに位置付けられています。総合計画では、にぎわいのある街づくり、重点事業地域のにぎわいづくりに向けた商業・観光施策の展開で位置付けられています。新プラン想定項目として、前回皆さまからご意見いただいた部分や、調査等も含めて、こちらを位置づけさせていただきました。「観光」の持つ交流、他地域の人々との関係構築（関係人口）、多様な主体の連携等、幅広い機能を活用する方向で位置づけ直す、というのが現行プランから大きな変更点です。ポイントとしては、日常を含め市民がホスト・ゲストとして楽しめるものを観光と位置付ける（シティプロモーションの視点）、また、産業間連携、世代間連携、地域間連携もしっかり記載していきたいと思っております。

- ・産業間連携・交流：前回ご意見いただきました強みの商業や先進技術の産業、博物館・美術館等の文化施設等を観光拠点として活用していく等、多様な主体の連携を促進していくことも検討したいと思います。
- ・世代間連携・交流：武蔵国から続く府中市の伝統・交流文化のところは、現行プランでは資源の羅列になっていた部分もございます。また、調査結果でストーリーとして伝わってないという結果も出ていますので、そこをしっかりと丁寧に伝えていきたいと思っております。そして、その府中市の良さを残しつつも、新しい時代を担っていく次世代の育成と次世代との交流を促進していきます。WG3 回目でも、次世代を狙っていきたいという意見も多く、20 代が活発という調査結果も出ていますので、この世代間連携もしっかり検討していきたいと思っております。例えば、小中学校等の観光まちづくり教育、高校・大学等の教育機関との連携、外から訪れる若い世代との交流を検討していきます。
- ・地域間連携・交流：他地域、近隣市と連携をしながらも、府中市のポジションを明確化します。その上で他地域、近隣市と連携を図っていきます。

現行プランでは、施策に対してそれぞれの指標が設定されておりませんでしたので、成果指標を設定していきます。「交流」・「市民参画」に重点を置いた際に、入込数だけでない指標を今後の議論を基に設定をし、計画を評価できる体制を作っていければと考えています。第1章府中市観光振興プランの概要は以上となります。

【大津会長】

事務局より第1章府中市観光振興プランの想定項目について説明がございました。疑問点等ございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。

※意見なし

【大津会長】

それではここで大下副会長から、1ページ目についてコメントをいただきたいと思います。これからの進行といたしまして、各項目ごとに大下副会長からコメントを頂ければと思いますので、よろしくお願い致します。

【大下副会長】

観光振興プランというものは、基本的には法律で定められた計画ではないです。都市計画マスタープラン等は都市計画法に定めなければいけない旨が書いてあるので定めないとはいけません。ところが、観光立国推進基本法の中でも国が作りなさいとはありますが、都道府県、市町村が作りなさいとは書いていません。従いまして、観光振興プランは法定計画ではないので、各市がどのようなスタンスで作っているのかが一番最初の概要となります。一番多いのが、産業、経済の部門計画と密接しているものが多いです。すなわち観光は経済に位置付けられていて、産業の一部分、工業振興や農業等と同じ位置づけで観光を定めているというのが圧倒的に多いです。一方では、文化的なところに観光を置いているところだと、資源が重要というケースもあります。要はそこから何を求めるかが大きな位置づけになるということです。今申し上げたように、ここで新プランの想定の中に、産業、経済の部門計画を超えたようなもので持っていくということが今回の府中市の特徴の一つであるのご理解いただければと思います。

この中に多様な主体の連携が出てきておりますが、下の目標の中で市民参加、小中学生等への観光まちづくり教育、すなわち教育部門や市民活動的な部門と一緒にしながら、シティプロモーションの広報部門で観光を支えていきたいと思います。非常に大きなことだと思います。

冒頭の所では目標値というものは出てきませんが、お話がありましたので説明いたします。多くの地域で出されているのは、「観光入込数何人」というのがありますが、あまり役に立ちません。例えば200万人来ていたとしても30分しかいなければ意味がないと思います。時間×人数の考え方が必要です。ターゲットによって違ってきますので、掛け合わせたようなものが最終的な目標とすべき数字であると思います。少しでも時間を伸ばそうと行っていくことによって、最終的には地域経済を潤すことに繋がります。また、満足度が重要です。満足度は、期待と実感の差で満足度を上げるとリピーターや滞在時間の延長に繋がります。よって単に入込数の指標に設定せず、人×時間×満足度を考えていかなくてはなりません。さらに市民参画になってきますと、次世代を担う子供達のふるさと意識を高めていくことや、ベテ

ランの方々がボランティア等で行っているツアーや案内する人たちを増やしていくこと等も含めて、交流、市民参画に重点を置いた時の指標の一つとして議論をいただければと思います。目標を産業だけではなく、幅広い分野で観光というツールを使いながら、行っていきましょうということを検討協議会の中でご了承いただければ、今後市でも関連する部署と一緒に行っていかないと実現されないのでは、そういうところにも影響してくる新しい取り組みをしているとご理解いただければと思います。隣の多摩市は、「健幸都市」として皆が元気になるような観光、という捉え方をしています。府中の場合は、産業や歴史をどのようにつなげていくか、新しいものに対してどのように取り組んでいくかを幅広く捉え、経済部門だけではないということにご理解いただければ、この後の議論につながるのではないかと思います。

【大津会長】

ありがとうございました。いきなりですとなかなかご発言が難しいと思いましたが、大下副会長のコメントをいただきましたが、これからも聞きなれない言葉など、ご遠慮なくご発言をいただければと思います。それでは続きまして、2~4 ページをご覧ください。府中市の概要と観光の現状、府中市の観光の課題、SWOT 分析の新プラン想定項目について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

2. 府中市の概要と観光の現状について、事務局よりご説明させていただきます。現行プランでは、府中市の概要、主な観光資源と特産品、観光の動向が記載されています。各テーマごとに各資源が羅列になっていますので、それぞれの価値がなかなか伝わらない状態かと思えます。

新プラン想定項目ですが、協議会やWGにおいて抽出されたコンテンツとしての場所・モノ・コトを整理してまいりたいと思います。かなり多くの資源やコンテンツ、人という部分も意見をいただきましたが、主要テーマということで歴史・文化、緑、産業、スポーツ、その他（アニメ聖地巡礼等）に整理させていただきました。視点としては、先ほどの位置づけでも説明いたしましたが、市民も楽しめる、楽しんでいる等、生活・文化を含めたコンテンツも整理していきます。各主体が行っている取組、交流、価値の再整理というところですが、WG3 回目でかなり多くの取り組みが共有いただけましたので、そこは資源の羅列ではなくて、しっかりコンテンツとして、プランに記載をしていく形で検討しております。例えば、くらやみ祭の神輿体験・工場社会科見学・ハイキング等の企画ツアー・自然講座・美術鑑賞教室等、それぞれの価値を再整理していきたいと思えます。こちらについては、後ほどスケジュールの所でご説明いたしますが、事業者等にヒアリング等を行うなどの調査を含め、次年度のプランに落とし込んでいきたいと思えます。

また、国と都の観光動向や定量調査による府中市観光の現状、現行プランからの変更点、観光の多様化・トレンドについてもテーマ型観光、地域との関係の「場」の提供、関係人口、マイクロツーリズム、ワーケーション等新たなトレンドも出ていますので整理していきます。そして、コロナ禍における変化（国内旅行のメインターゲットに変化の兆し：若年層の旅行が活発化している等）、継続的な取り組みとしての with・after コロナ・新しい旅の形への対応等も整理をしていきたいと思えます。

3. 府中市の観光の課題について

現行プランでは、観光の現状分析、観光振興へ向けた課題とターゲットという形で記載されています。新プラン想定項目ですが、定量調査にみる傾向ということで、歴史についてのイメージも現状では薄く、「くらやみ祭」の認知率は9%程度ということは前回共有させていただきました。一方で、20代男性が興味を示しているということも共有させていただいたと思いますので、その点も踏まえて、従来の観光イメージにとらわれない、コンセプト・戦略の設定をしていきたいと思います。

現行プランでは、マーケティングが曖昧になっていましたので、ターゲットをしっかりと定めていく必要があります。次世代を意識したターゲット設定、個別ターゲットに対するコンテンツのブラッシュアップ、プロモーション・コンセプトが重要です。市内では、小中学生等への観光まちづくり教育、市外では1都3県（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）の20代男女ということで、多様性を求める層に様々な価値を提供していく方向性で考えております。

4ページ目は現状・課題を踏まえたうえで、SWOT分析を再整理しております。第2回協議会で共有させていただいたのが、現行プランに記載されているSWOT分析で、今回は今までのご意見や調査結果を踏まえた上での新しいSWOTに修正させていただいております。

強み（S）としては、武蔵国の国府、ストーリー性、企画展を開催する美術館、先進技術などの産業が集積している、駅が14箇所あり、都心からのアクセスが良好、暮らす人の満足度が高い、人情味の厚い府中市民、公園や都市農業など緑空間が多い、次世代育成の場づくり、良好なスポーツ環境、スポーツ大会のホストタウンなど国際交流の促進等を記載しております。

弱み（W）としては、各資源・コンテンツの認知度の低さがあり、ストーリーとして伝えていく必要性、お祭り・イベントへの参加ハードルの高さ、各主体がそれぞれの取組を行っているが連携が取れていない、観光の案内拠点が少ない（駅が14駅あるが、観光の拠点にはなっていない）、観光危機管理の視点（多摩川の氾濫や災害時の危機管理）等考えていく必要性があります。

機会（O）としては、東京2020オリンピック・パラリンピックについては開催有無ではなく、これまでのホストタウン等の取り組みを活かして国際交流を推進していく必要があると考えています。ラグビーワールドカップのレガシー（スポーツを通じた交流）も一緒です。また、スーパーシティ・スマートシティなど、デジタルや先進技術への注目、SDGsの国際的な流れ、コロナ禍における健康志向の高まり（緑空間やスポーツ環境への関心の高まり）等も機会として考えられると思います。

脅威（T）としては、新型コロナウイルスの影響、多摩川氾濫等の災害、人流の減少、都市化による緑（公園や都市農業）の減少等、挙げられると思います。

2～4ページご説明させていただきましたが、ご不明点等、忌憚のないご意見をいただければと思います。

【大津会長】

只今事務局より、2～4ページを説明いただきました。新プラン想定項目について、説明がございましたが、疑問点や、追加すべき視点等ございましたら、発言をお願いいたします。

【廣瀬委員】

SWOT分析のところですが、強みの所に、近隣市より小中学校が多いとあるが、2つの大学、外国語大、農工大があるというのは、観光にも非常に密接にかかわるコンテンツだと思います。20代の訴求と

いうところにも関わってくるのだと思いますので、是非強みの一つとして農業高校も併せて記載してもらいたいと思います。もう一つの視点として、文化の所にも関連するのですが、美術館、博物館の記載がありますが、劇場やホール等の音楽を活発に活動されているところも多いので、施設面等も含めて強みや機会に含めても良いと思います。

【大津会長】

ありがとうございました。

【石川委員】

既成概念という視点ですが、美術館や博物館などの場所にイベントを追加したことによって、新しい価値が生まれませんかと思います。例えば結婚式を行っても良いと思いますし、NO.1にならなくともオンリー1になることで、観光の付加価値として考えられれば良いと思います。くらやみ祭も奇祭と聞いていたので、今まで行ったことのないことをするなど、府中らしさと結び付ければよいのではと考えていました。また、台風19号で、親水公園ではウユニ塩湖のような現象が見られ、隠れた名所になっているとも聞いています。そういったところを整備し、付加価値として付け加えた観光も考えられるかなと思いました。

【事務局】

石川委員からいただいたご指摘ですが、我々が考えていることが、付加価値というところで、WGでも話し合いましたが、美術館や博物館がタッチポイントになりますので、そこで府中市の情報発信をしていく等、様々なことができるかなと話し合いをしています。結婚式は思いつきませんでした。付加価値をつけていくことなどは盛り込んでいきたいと思っています。

【大津会長】

ありがとうございました。私からの意見ですが、弱みの所でお祭りの参加ハードルの高さに関して、くらやみ祭に関して言わせていただければ、ハードルの高さがあるから今まで続けてきたのではないかと思います。市民祭りとは違い、神輿を簡単に担げないということを弱みではなく、強みとして発想転換をして考えられないかと思います。だからこそ、この祭りに参加するにはどうしたらよいか、参加する人が考えて行動していただくと、色々な面にプラスになっていくのではないかと思います。いかがでしょうか。

【事務局】

おっしゃる通り、神輿を担ぐことがハードル高いということで続けてきたのはあると思います。ストーリーとして強みに活用できる場所はあると思います。例えば、参加ということで考えたときに、くらやみ祭を見に行こうという人がどこで何をされているのか、そこで交流みたいなものが出ないか、お酒を飲みながら地元の人と話をすることができないか等、接点づくりを考えていけないかと思っています。

【井上委員】

人の滞留時間と満足度のところで、2～3年前ですが、四ノ宮のあたりはガラガラでした。滞留時間がものすごく短いです。府中のイベント含め、ものすごく滞留時間は短いというのが現状で、立川だと昭和記念公園があったり、吉祥寺は井の頭公園があって、必ず3～4時間は滞留していると思います。府中は2時間が限界かと思います。お祭りで神輿を見るのはごく少数です。また、駐車場、駐輪場がまったくなくいです。物産館に関しては、観光で来てくれるサイクリストの数に対して駐輪場が全く足りません。今までの役所の常識ではなく、新しい常識に切り替えていかないと厳しいと思います。年齢層ですが、若い人たちはお金がないのでお金を落とさないです。サッカーのワールドカップの時と、ラグビーワールドカップの時では、数段お金の落とし方が違います。ある程度の年齢層を抑えていかなければいけないと思います。

【深澤委員】

骨子案の弱み強みのところで、なぜこれが弱み強みなのか、根拠がわからないと思います。また、奇抜なアイデアがないと従来型のやり方ではいけないと思います。例えば、新橋はアンテナショップがたくさんあり混雑しています。郷土料理もあります。我々の世代は東京生まれ東京育ちは少なく地方出身が多いので、府中もアンテナショップなど今まで行ったことがないことをした方がいいのではないかなと思います。音楽では、若い人を集めるのに、もっと的を絞って行った方が良いと思います。古いものは活かし、国府等しっかりアピールし、もう少し優先順位やメリハリをつけ、ターゲットをしぼった、奇抜なものをやらないと府中に人が集まるのは難しいと思います。

【大津委員】

従来のものではなく、極端なことを言うと奇抜なことを行わなくてはいけないという意見をいただきましたが、いかがでしょうか。

【事務局】

今回、マーケティングとお話させていただいておりますが、一番重要なことがターゲットの設定だと考えております。しっかりターゲットを設定して、その人たちに何を発信して伝えていくかが重要ですので、ご指摘いただいた通りかと思います。これが奇抜なものになるかどうかは今後の検討ですが、そういった視点でしっかり整理していく形で進めていきたいと思います。また、SWOT分析のところですが、前回のSWOT分析と比較していただくと全く違う表現になっています。今まで行ってきた調査や議論を踏まえて記載しておりますが、ご指摘の通り強みに入っているから強みとも限りません。歴史だけで集客できないのであれば、そこにどんなストーリーをつけたり、他にどんなものを組み合わせればより魅力を発信できるのかをしっかりと検討していくことが重要です。SWOTですが皆さん違和感があるところが出てくると思います。それを今日指摘いただき改めて検討したいと思います。

【小野委員】

SWOT分析の所が話題になっていますが、国府のストーリー性を作るのは明確にできると思います。国府が置かれて、普通は無くなり町が終わってしまうが、府中の場合には国府の後も、くらやみ祭というものが引き継いで宿場町が出来て、今に繋がっています。今、府中の中心がどこか想定すると多くの方が

大國魂神社の大鳥居の前あたりを認識すると思います。1300 年の間、町の中心がぶれないという都市は他には見当たらないのではないのでしょうか。東京、京都、奈良も町が生きている以上動いています。府中は町人も求心力があり、大國魂神社の歴史から成り立っています。そういったストーリー性を強調していきたいと思います。

先程、くらやみ祭についてハードルが高いのが弱みなのかという問題提起がありましたが、それによって続いているのは確かにありますが、観光化の中で継続しているということは間違いないことだと思います。柳田國男という民俗学者は祭りは人に見られることによって発展してきたという明確な提示をしておりますが、くらやみ祭も氏子だけではできないようなお祭りを講中組織を作ったということによって今に発展していることもあると思います。閉鎖的ではありますが、一過性ではなく、恒常的な組織を作ることによって現在に至るので、ハードルが高いことを強みにしてきた、裏を返せば観光化によって今の祭りになってきた、くらやみ祭の観光はこれからのキーワードになると確信いたします。

【得居委員】

強みから言いますと、一昨年、くらやみ祭のゲストに六角精児さんが来ましたが、六角精児さんは有名な鉄道マニアであります。駅が 14 カ所もある街なのに、鉄道が何もフィーチャリングされてないと思います。駅が多いということは、鉄道も多いということで魅力だと思います。鉄道ファンは色々なところから集まってくるので集客力があります。

弱みの中で府中を象徴するイメージが足りないのはおっしゃる通りですが、鉄道を使って何らかの形で府中を訪れる方がいる、宿場町があった、競馬場があるなど、人が集まる事の吸引力が府中は見えないところで沢山あるなと思いました。お祭りの弱みでイメージが弱いとありますが、逆を取ると府中のお祭り知ってますか、夜にはじまるお祭り知ってますかという問いかけもできるのではないかと思います。

「くらやみ」という昔からあったキーワードがヒントになると思います。鉄道の話に戻りますが、砂利を採取して運んでいた鉄道、線路の跡もあります。こういった見えない鉄道の歴史もあり、今はないですが、京王線などが玉南鉄道と乗り入れたときに、不思議なプラットフォームの段差があったり、過去の記憶を残した昭和 3 年頃の映像が動画として残っているので何かの形で使えるのではと思いました。キーワードは「人が集まる」ということと、「鉄道」を何かの形で使えないかということです。

【大津会長】

ありがとうございました。人が集まるというご発言がございまして、調査の中でも 20 代の方が多く来ているというのがありましたが、JRA の都留委員さん何かございますでしょうか。

【都留委員】

競馬場は、コロナ禍で無観客で営業していないので、イレギュラーな状態ではありますが、ここ 10 年は入場人員はそんなに増減がありません。その前の 10 年はインターネット投票などで入場人員は下がっています。平成に入ってすぐくらいの頃は、一番入場人員が多くてダービーに 20 万人近く来ています。その頃は鉄道各社や地元の皆様にもご迷惑がかかるくらいの方が集まっていたので、バランスのとり方がなかなか難しいとも思います。ただその頃は、飲食や宿泊といった地元へ流れるお金や人の流れは多かったと思います。

【得居委員】

駅の周辺に展開している商店街が多いという面では人がたまる所であり、駅前の再開発で、吉祥寺のハーモニカ横丁のように人が滞留する場があったほうが良いと思います。お年寄が腰かけるベンチも少なくなってきた、人がいるところが少ないとも思います。

【大津会長】

街には表の面と裏の面が無いと面白くないということですね。私もそう思っております。まだまだご意見をいただきたいですが、ここで大下副会長よりコメントをいただきたいと思っております。

【大下副会長】

皆様ありがとうございました。様々な刺激をいただきました。

1点目、まず2ページの所ですが、今回この時期に調査を行ったということ、この時期に計画を作っていることは極めて大事であります。どういうことかということ、新しい動向・新しい生活様式を踏まえ、新しい観光の姿で計画が作られるということが他の地域とは違うということをご理解いただきたいと思っております。

2点目は、都の観光政策もしっかり受けていきます。今、東京都は、PRIME 観光都市・東京というのを作っていて、2020に向けての計画を作っていたのですが、1年延期になりました。2021年早々に次期計画を作る形で検討が進められております。その時の大きな観点が3つあります。1つ目はコロナ禍からの着実な回復、2つ目は、社会変化に即した新たな観光の創出を図っていく、3つ目に、持続可能な観光の基盤づくりを進めて行く、という3つを掲げています。これまでの現行プランであった3つのテーマ、1つ目の「世界のおもてなし都市東京の実現を図っていく」は、次期計画では、あらゆる旅行者が安心安全快適に過ごせるような東京を作っていこうという動きであったり、2つ目の「世界の旅行者を楽しませる旅行体験の創出」は、地域が一体となって多彩で良質な体験を提供し続ける東京の実現を図っていく、3つ目の「旅行地としての世界的な認知度を高めていく」は、世界中の多様な旅行者から選ばれ続ける東京の実現を図っていくというような大きな方向で進めようとしています。その中で大事なことは地域が一体となって多彩な良質な体験、まさしく議論いただいているようなものが、多摩地域の中心を目指している府中から生まれてくるのにつながっているのではないかと考えています。これは4月以降さらに詳細になりますので、なるべく早めに得られた情報はご報告しながら整合性のとれたものにしていきたいと思っております。

3点目、SWOT分析は企業経営を行うときに出てくる話です。会長がおっしゃられた、お祭り参加のハードルが高いということは、格式の高い祭りであること、という言い方をすれば強みになります。弱みの、府中のイメージが弱いということは、既存イメージが強いとイメージに合わないからと足を引っ張る人がいることもあります。強み弱みは変わるものです。それを十分に考えた上でSWOT分析を見ていく必要があります。目標があって、その目標によって強み、弱みと表現一つで変わります。これから議論を重ねていく中でSWOT分析は変わってくると思います。強みとチャンスクロスしていく、クロス戦略まで最終的に持っていき、このあとに出てくる施策の大きな体系をなしていきます。クロスSWOT分析まで、発展させていただくことを事務局にお願いしたいと思っております。

4 点目、3 ページのマーケティングのところですが、コロナ禍で行ったことを背景に、JTB 総研のノウハウがあってできたわけですが、通常の簡単に出来る方法も考えていただくとありがたいと思います。マーケティングを行うたびに多大な労力と費用がかかるようでは、マーケティングに基づくプランは、改訂のときにしかできなくなってしまいます。これからのデジタル社会の中で、日常的なデータを取れる工夫があれば、先々のことまでご検討いただきたいのでお願いしたいと思います。

5 点目、小中学生等への観光まちづくり教育、東京都が目指していることです。一番大事な原風景は校歌にあります。小学校は6年、中学校は3年間歌います。校歌には心象的な言葉が使われているので、分析をして、打ち出していくときのキーワードにしたらどうでしょうか。次回以降データなりで整理していただくと有難いと思います。

6 点目、奇策なアイデアは言い換えると脱常識的発想です。いろんな角度から見たらマイナスもプラスになり、ピンチはチャンスになる可能性があります。観光の多くは、目に見えるものを中心に扱いますが、目に見えないもの、地域の記憶を含めた、新しい光を観せるというのが新しい観光と、今回の計画の柱にすれば、今日いただいた皆さんの意見を集約できると思います。

【大津会長】

それでは先に進みます。基本目標と施策の方向性、新プラン想定項目について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、4. 基本目標と施策の方向性についてご説明いたします。現行プランでは、基本目標、施策の基本方針、施策の方向性で記載がございます。現行プランでは、スローガン、理念（コンセプト）と記載の通り定められております。新プラン想定項目について、スローガンのキーワードですが、今までのご意見や調査も踏まえて、昔から国府、宿場として人々の往来・交流が盛んなまち、市民がホスト・ゲストとして楽しめる、暮らす人が府中を好きだという想い（シビックプライド）、次世代、未来につながる伝統や技術等を踏まえてスローガンを考えていきたいと思ひます。コンセプトのキーワードとして、核となるテーマ：歴史・文化、緑、産業、スポーツ、その他（漫画・アニメなどの聖地巡礼等）、従来のものを抑えつつもブラッシュアップしていきたいと考えております。また、「観光の持つ「交流」等幅広い機能を活用」、「市民の参画（愛着・シビックプライド醸成）」、「多様な主体の連携行政内連携」、「マーケティング視点」を踏まえた上で整理をしていきたいと思ひます。4章については以上となります。

【大津会長】

事務局より、新プラン想定項目についてご説明がございました。なお、5 ページ目は今後スローガン、コンセプトを検討する上で、押さえておきたいキーワードを整理したものとなっております。スローガン、コンセプトは次回以降の会議で、議論致しますので、ここで5 ページ目の記載事項について疑問点や追加点がございましたら、ご意見をいただきたいと思ひます。

【筒井委員】

大下副会長の解説もわかりやすく、考える方向性がみえました。

JAZZin 府中であつたり、よさこいだつたり形は違うが、各地でやって演奏する人や、踊り子さんたち、ファンの人たちが移るにつれて交流も生まれてくると思います。よさこいも商店街と連携しておりますが、そういった連携も広がればと思います。現行プランから新プランがどうなっていくのか楽しみです。

【大津会長】

府中には、駅が 14 あるということですので、JR の長尾委員お願いいたします。

【長尾委員】

府中には 14 駅あるうち、JR は 4 駅ありますが、西府駅は平成 21 年 3 月に開業と歴史が浅いですが、お客様の流れは変化しています。駅が出来たから栄え、影響力があるというのはあると思います。

【林委員】

色々なことを勉強できた機会だったと思います。鉄道が強みというのはいずれの話で、駅が 14 あるのはなかなかないと思います。それが強みであれば、しっかり発信していくのは大事だと思います。スローガンとコンセプトの所で、脱常識の発想のお話もありましたが、コンセプトに入れるとしたら、どういうことを入れるのかなと個人的に疑問に感じました。府中は新しいことを行いますよということを、うまくコンセプトやスローガンに入れられると素敵なものになるのではと感じております。

【横山委員】

府中の森芸術劇場の催しで合唱コンクール、吹奏楽、お母さんコーラスがあつたり、人が沢山きます。博物館で結婚式という意見がありましたが、素敵だなと思いましたが、他の県にも PR ができると思います。近県からもジャズフェスにお手伝いに来たり交流があります。

【宇田委員】

府中が好きなおともあり、先月も関連の団体の仲間を集めて、大國魂神社、郷土の森博物館へ梅を見に行きましたが、私以外府中のことを知らない団体でしたが非常にいいところだと言っていて、改めてウォーキングを企画して良かったと思いました。日頃から思っていることが、神事的なお祭りもあり、ジャズもあり、キャンドルナイトだったり、数多くのイベントが一年中やっています。これらの主体は全てバラバラで人の流れが分散しています。情報を一本化して市外の人たちに綺麗に伝わるようなサイトがあつたら良いと思っています。まずは府中の人を知り、自慢できるようになると市外の人にも伝わり府中に興味を持ってもらえるのではないのでしょうか。呼ぶために、何かイベント、ポイント貯めて景品がもらえたりというような仕掛けがあつても良いかと思ひます。

【大津会長】

ありがとうございました。まだ皆さまのご意見をお伺いしたいところですが、ここで大下副会長よりコメントいただきたいと思ひます。

【大下副会長】

5～6 ページにあたる場所ですが、皆様の意見に加えて、少しお話をさせて頂ければと思います。スローガンやコンセプトと言われているものの表し方は最終的な観光地の姿を見せるというやり方と取り組み方を示すというものなど様々あります。

例えば、博物館都市を目指しましょうとか、劇場型の観光交流都市づくりみたいな話を持っていきますよというやり方もあります。また、取り組み方でいうと、多様な主体がどう関わって様々な観光の姿を出していくのかというやり方もあるので、皆さまの意見をいただいた上で、最も近いものが何なのかを踏まえて、スローガンを表す必要があると思います。ただ、言葉だけの問題なので作らないという地域もあります。スローガンもステップアップごとに変化する考え方もありますので、次回以降議論を深めていきたいと思います。

施策の方向性と記載がありますが、どう構成しているか基本的なパターンがあります。1番上に来るのは、どういう情報発信をしていくのか、真ん中にはどういうテーマでいくのか、下からは基盤で支えます。次回以降ビジュアル的に表現していくとより皆さんに伝わりやすいのかなと思います。

6 ページの記載は、大事なことで、個別施策ごとに必要となる内容をブレイクダウンします。施策というのはある一定のものが必要ですが、もう少し表現をもたせたようなやり方もあります。そういった場合は最後のプランの推進へ向けての間にリーディングプロジェクトやシンボルプロジェクトと言われる、今後重点的にやっていくプロジェクトを示します。JTB総研はいくつか作られたことがあると思いますので、どのパターンが今回の府中に近いのか次回以降ご提示いただければと思います。

【大津会長】

ここまで骨子案全体について、総括して大下副会長からご意見をいただきたいと思います。

【大下副会長】

私は、東京都で観光事業審議委員をしております。多摩地域には必ず郷土カルタがあるのに、東京都全体のものはないので観光カルタ等作るべきだと伝えてきました。そういう中で子供達の観光に関する教育として、三宅島観光に関する教育冊子を作りました。こういったことを行うことも観光の一部分です。今後具体的な一歩として色々な意見をいただければと思います。

【大津会長】

本日意見徴収させていただいた内容を私と大下副会長、事務局で預からせていただいて、骨子を完成させ次回の協議会で皆さんにお示しし、次回以降はプランの具体的内容についてご意見をいただきたいと思います。

(5) その他

【事務局】

資料 3-4 参照

今後のスケジュールについてご説明いたします。

今後の意見を踏まえまして骨子を完成させていきたいと思っております。完成後、次年度に入りますが、協議会については 3 回予定していきましてWGは 2 回程度想定しております。骨子の部分では伝わり

づらい表現等ございましたが、文章化し作成してまいりたいと思います。まずは5月、プラン案に関する協議という形で素案に協議をいただきたいと思いますので、会議資料を事前に送付できるようにしたいと思います。WGに関しては、どこまで具体的に落とししていくのか、推進体制も含めてWGメンバーで検討していきたいと思います。7月の協議会は、WGで協議したものを議論して、8月のWG、最後9月にほぼほぼ完成版を事前に送付させていただいて議論できればと思います。

追加調査といたしまして、フィールドワーク、事業者の取組調査等も踏まえてブラッシュアップしてまいります。12月～1月にパブリックコメントを実施し、2～3月プラン策定、印刷製本という流れになっております。

次回開催日：2021年5月19日（水）午前10：00から

場所：北庁舎3階第5・6会議室